



新規就農革新

新潟県 津南町



お問い合わせ先
津南町地域振興課
〒949-8292
新潟県津南町大字下船渡585
TEL・FAX 0257-65-3111

河岸段丘に広がる
広大な優良農地

津南町は新潟県南端に位置する人口約一万二千人の町です。信濃川に志久見川・中津川・清津川が合流する地点にあり、見事な河岸段丘が広がっています。町の基幹産業は、魚沼コシヒカリに代表される農業です。冬期は3メートル以上の積雪が珍しくない豪雪地帯で、マウンテンパーク津南をはじめとするスキー場がにぎわいます。信濃川流域には数多くの発電所が建設され、東京電力（株）最大の年間発電電力量を誇る信濃川水力発電所（十七万七千キロワット）や同社の中津川第二水力発電所（十二万六千キロワット）のほか、東北電力（株）宮野原水力発電所（二千五百キロワット）などがあつて、首都圏をはじめ各地に送電されています。

津南町では昭和三十年代後半から国営農地開発事業に取り組み、昭和四十八年から農地の開拓やかんがい施設の整備が進められました。当初は水田となる計画でしたが、昭和四十四年に始まった米の生産調整に伴う開

津南町は中山間地域でありながら、雄大な河岸段丘という地形上の特性に加え、開発事業の成果もあつて平地に近い大規模な農業経営が可能のため、安定した農業就業人口が確保されています。全国トップクラスの人氣米を擁する稲作は、出荷価格が高値で安定し、機械化も進んでいるため高齢農家も意欲的に続けています。しかし、稲作は出荷価格が不安定で、重い作物を扱う上には作業の割合も高いため魅力に乏しく、貸し農地や耕作放棄地も目につきはじめています。

そこで、平成七年の財団法人津南町農業公社の設立を機に、町外からの新規就農者の受け入れに取り組み、十年間で約二十名の就農・定住を実現しています。ここでは、充実した生活支援制度や研修制度を通じて、新しい畑作の担い手を生み出す津南町の新規就農者支援制度を取り上げます。

CONTENTS

特集：電源地域のサクセスストーリー

新規就農革新

新潟県 津南町

受け入れ機関の一元化で素人就農を支援

津南式新規就農者支援制度

不屈の精神力を持つ これが受け入れ資格

情熱を失わぬ新規就農者たち、それぞれの今

早河聖光さん

島田有介さん

岩本丈典さん

新しく農業をやってみたいという方々へ

■ DATA PAL

津南町

FOCUS 政策制度

日本の原風景「棚田」を守る地方と都市の交流活動

棚田オーナー制度

交流から定住へ 棚田再生による地域おこし

大山千枚田オーナー制度

千葉県 鴨川市

ふるさとじまん

秋田県 八竜町 / 千葉県 袖ヶ浦市

福井県 あわら市 / 山口県 福栄村

情報クリップ

地域価値創造力

「エネルギープラザ2004宮城・女川町」

「電気のふるさとじまん市 札幌」開催のお知らせ

「地域のひろば」は、電気のふるさとのもちづくりを応援する情報誌です。

表紙イラスト・相原健二

畑作の担い手を求めて

国営農地開発事業のおかげで津南町の畑地は一区画が一〇三畝と広く、全域にかんがい施設が整備されているため、大規模な野菜栽培には最適です。それでも津南町地域振興課の石橋さんは畑作の難しさを次のように語ります。

「稲作の場合、十坪あたりの収量は七百キログラムで、機械化も進んでいます。これに対し畑作の場合は、同じ十坪あたりでニンジンで三ト、加工トマトで七〜八トもの収量があり、手作業も多く残っています。高齢化した農家が、作業の厳しい畑作を敬遠するのも当然です」

そのうえ、「シロカワ」人気の陰で、地元で畑作を続けようという人は必ずしも多くないため、平成七年の財団法人津南町農業公社の設立を機に、本格的に新規就農に取り組み始めました。

「町が資金面、JAが指導面を担うやり方では、就農者本人の希望や農地のあつせんをうまく連携できません。その点、農業公社なら農地の売買も可能ですし、資金面と指導面を一元化した受け入れが可能です。私たちは、住居の確保と農地のあつせんは、新規就農者に対する最低限の責任と考えていますが、これらを行えるのが公社の強みです」

JAや地元農家の協力も不可欠です。JAは技術指導や経営相談のほか、農業機械のリースや資金融資など、多くの重要な役割を果たしています。地元農

家は、農作業の研修や指導だけでなく、就農者の頼れる相談相手ともなっています。

技術・機械・住宅すべてを支援する津南方式

津南町の新規就農者に対する支援制度の概要は次のとおりです（次ページの図も参照）。

制度1 生活資金の支援

農業収入で生活が可能になるには三年から五年はかかります。このため、研修中には月十五万円的生活費を支給しています。

制度2 農業機械の助成

就農時には、トラクターや堆肥散布機などの農業機械が必要です。そこで、県六割、町二割の計八割という高率の購入資金

補助を行い、残額はリース料としてJAに支払う形で、当初の自己負担をほぼゼロに抑えています。

制度3 住宅の提供とあつせん

新規就農者向けの町営住宅（を一棟建設し、研修中は月一万円（単身者用）または二万円（家族用）の低家賃で賃貸しています。現在はほぼ満室で、他にも町内の空き家や貸家をあつせんし、安定確保に努めています。

制度4 農業機械や作業場の提供

農業公社が保有する農業機械を、就農準備期間中に貸し出しています。また、野菜のバッキングなどに利用できる作業場を、二棟九ブロック（九名分）用意しています。

受け入れ機関の一元化で素人就農を支援 津南式新規就農者支援制度

津南町の新規就農者支援制度の特徴は、農業公社を中心とする一元的な育成制度にあります。受け入れ主体の一元化によって、住宅の提供・あつせんや生活費・農業機械購入費などの補助に加え、地元農家や農業公社での三年間にわたる農業研修など、充実した制度を実現させたのです。その狙いは、初心者にも、地元に住居して畑作を続けてもらうこと。津南町と農業公社が用意した数々の制度について、津南町地域振興課・農林班長の石橋雅博さんに伺いました。

支援制度の充実を図りながら、「新規就農者よりも地元にお金を使ってほしい」という声にも配慮して、町の支出を極力抑える工夫をしています。例えば、国から新規就農者への貸付金を一定期間後に県の補助金で償還するなど、国や県の補助金を精査した上で効果的に活用しています。

平成九年度の新潟県中山間地域活性化総合対策事業を活用

就農者の決意以上の覚悟で育てる

平成七年に四人の新規就農者を受け入れたときは、先進的な

取り組みがメディアで大きく取り上げられ、宣伝経費を抑えることができました。現在は、全国農業会議所内にある青年農業者育成センターが年一回開催する「新規就農セミナー」がPRの中心です。近年では受け入れ市町村も増え、就農先も分散傾向にあります。先駆者として津南町が果たしてきた役割は小さくありません。

他地域は、農業法人に就職して、職員として働きながら勉強し、その後独立する人が増えています。当初から経営リスクを負わずにすむため、農業経験が

なくても始めやすいのが理由です。一方、津南町のように最初から個人で新規就農する方法は、従業員一名のベンチャー企業を起業するのに似ています。農業はもちろんだ、販売なども含めた経営全体を自ら考える必要があるからです。

「JAや地元農家などの指導者に恵まれた津南町といえども、町を含めた地元の指導体制だけでは、経営面の体系的な指導に限界があります。地元の農家自身、これまではよい作物を作ることに専念し、経営ノウハウの十分な蓄積にまでは至っていないので、この点は今後の課題です」

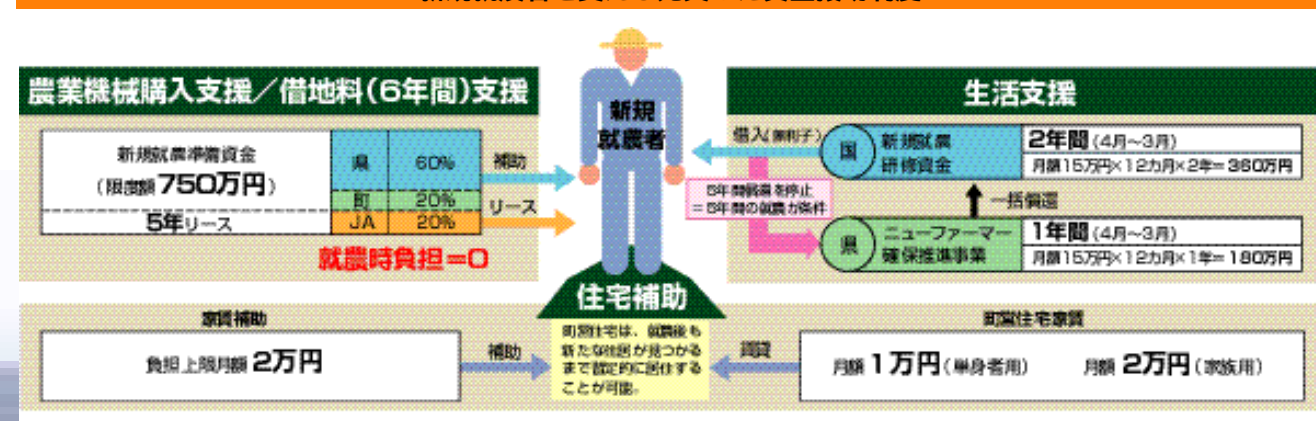
津南町地域振興課 農林班長 いしはしまさひろ

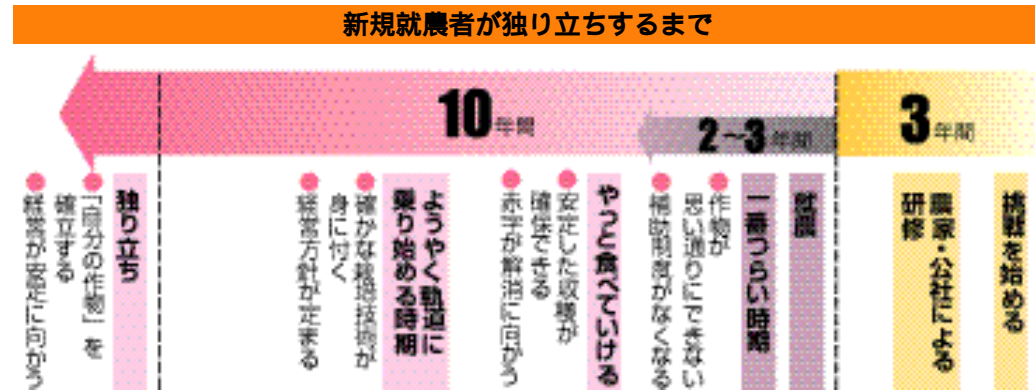
石橋雅博さん

支援制度を充実させ、公私にわたるきめ細かなサポートを考え続ける津南町。石橋さんは受け入れを成功させるポイントを次のように語ります。

「新しい制度が始めるには、障害がつきものです。受け入れる側には、何がなんでも定着させる」といつ、就農者に負けないくらいの決意が求められます」

新規就農者を支える充実した資金援助制度





「ひとたび受け入れたら徹底的に面倒を見る」というのが津南町の方針



農業公社の実習風景。石橋さんも教える。

ひとたび受け入れたら、本人が自立できるまで徹底して面倒を見る。これこそが、津南町の新規就農支援制度の最大の特徴であり、数多くの就農者を定着させてきた理由なのです。

「最近では、受け入れ人数を絞り込んでいくのが実情です。、まずは現在ががんばっている人たちの経営を安定させ、一人ひとりを一人前の農業者に育て上げる。それが津南町の一貫した方針であり、受け入れた私たちの責任だと考えています。」

「継続なく、厳しい状況が続いています。そんな中、安心して畑作に取り組んでもらうには、適切なノウハウに基づく農業指導

や、住宅のあつせんなど継続した生活面の補助が欠かせません。加えて、研修先の農家を通じて就農者が、困ったときに助けてもらえるだけの信頼関係を地域に築くためにも、年間一人か二人の受け入れが精一杯だと分かっていたのです。」

「さまざまな経験を持つ人材が加わることで、ITを活用した農業や、魚沼コシヒカリに負けない新たな畑作物への挑戦など、夢は大きく広がります。十

年後、二十年後の町の姿を想像するだけで楽しくなります。」

「三年間みつちり研修を受けても、『はい、卒業』とはならないのが農業の厳しさです。就農して五年くらいは、自分で考えたおりに物事が進まない上、補助もなくなっていく時期が続きます。もともと、津南町では就農時に巨額の機械投資が必要な稲作や、栽培が難しい作物はなるべく避けて、農業収入で生活できるようにすることを第一の目標にしています。しかし、最近では新規就農者の主力作物だったニンジン相場の低迷が

かん水施設がすべて整備 津南の畑地の特長

津南町の畑地は、大部分が河岸段丘の台地上に位置し、かん水が不十分なことが課題でした。そこで、昭和48年から三期に分けて実施された国営農地開発事業では、水不足の解消に重点が置かれました。主な内容は、雪解け水を貯水するダムの建設や、標高の高い畑に水をくみ上げるポンプアップ施設の建設、各ほ場へのかん水施設の整備などです。全国でも最高水準の整備状況の優良農地は、新規就農者にとって大きな助けとなっています。

「一人前まで十年」まず問われる就農への覚悟

「農地も、住宅も、機械もない状態で農業を始めるのは無理があります。就農しても、すぐに食えていけるほど甘くはありません。何年もかかって、やっと納得のいく作物が作れるようになってから、輸入作物の台頭で相場が急落して転作を余儀なくされたら、精魂込めて作り上げた作物が天災で全部だめになつたり、自分の力だけではどうにもならないのが農業の難しさです。新規就農を目指す人たちに、このような農業の難しさや津南の畑作の現状を徹底的に説

明し、納得した上で来てもらっています。基本的には『来るものは拒まず』ですが、実情を説明しただけで帰って行く人も少なくありません。『今の会社がいやだから...』と、農業を普通の転職先と同じように考えている人ではとても無理です。百人以上の人を見てきたので、最近では一時間も話せば、この人な

ら続くかどうか、分かるようになりまして」

当初は研修の一年目で辞めていく人もいましたが、逆に二年目以降も続けている人にはほとんど脱落者がいないそうです。「長年、農業をやりたい」という夢を温めていた人は強いんですね。あえて言えば、農業に対する「熱意」が違います。一人前

「指導には、農作業を理論的に教えられる人が必要です。面倒見がよいことも条件です。研修後も、栽培技術や生活まで、幅広い面で就農者の相談に乗ることが大事ですから」

実際、新規就農者の多くは研修先の農家を師と仰ぎ、ときに親子のように緊密な関係を作りながら、たびたび相談に訪れま

農業を体で覚える 3年間に及ぶ研修制度			
年数	内容	ねらい	指導
1年目	農家研修	農家の手伝いを主として、農家・農家の実情を理解する	農家
2年目	公社研修	研修農地を1人あたり50㎡～1ha提供し、種まきから収穫まで体験することで、農作業をトータルに理解しながら就農に備える	1名の専任指導員
3年目			
就農後		—	

新規就農者に対する、津南町の農業研修制度の概要は表のとおりです。実際には、就農者本人の希望もできる限り尊重した上で、研修内容が決定されます。また、公社用とは別に、新規就農者が利用できるトラクターやたい肥散布機などの農業機械を用意して、負担の軽減を図っています。

不屈の精神力を持つ これが 受け入れ資格

津南町は、平成七年から平成十六年までに、のべ数百名の候補者から二十名の新規就農者を受け入れました。少数精鋭を貫く裏には、明確な理由があります。プロになるための農業指導から、営農指導や生活指導、地元農家との付き合い方に至るまで、責任を持って面倒を見られる人数には限りがあるのです。農業の現実を知ってなお「どんなに厳しくてもやりたい」という人だけを、しっかりと受け止めるのが津南町の方針です。

「新規就農者には大きなハンデがあるのですから、本人のやる気ももちろんですが、相應のバックアップが必要です」

新規就農者は、一年目には地元農家に研修に行き、農作業の手伝いをしながら指導を受けます。二・三年目は、公社の農場でより体系的に農作業を学びます（詳細は下表参照）。最初は受け入れ農家の意識にも差がありました。最近では体系的な指導ができるようになりまし

す。また、農業を続けるには地域社会に溶け込むことが不可欠ですが、そのためには研修先の農家の存在は大きいのです。外部の人間を受け入れることに地元の抵抗が無かつたわけはありませんが、石橋さんは将来に向けた可能性に期待してい



情熱を失わぬ新規就農者たち、それぞれの今

平成十六年現在、津南町の新規就農者は二十人で、うち二人が研修中、十八人が実際に就農しています。就農に至る経歴や畑の規模、作る作物は違っても、根底に流れる「農業が好き」という熱い思いは変わりません。どんなに努力しても思い通りにならない天候や作物に、ときに楽しささえ奪われそうになりながらも、日々、喜びに満ちて農業を続ける姿にはうらやましさを感ずります。ここでは、後悔なき選択をした新規就農者の姿を取り上げました。

「農業は天職。父の背を見て育てほしい」

はやかわきよみつ
早河聖光さん 就農六年目

早河聖光さんは、イベント製作会社やコンピュータ会社勤務などを経て、農業にたどり着きました。作物はコリや水稻が主体。いずれも栽培技術が難しく、新規就農者があまり取り組まない作物ですが、研修先農家や周囲の先輩たちにも支えられ、五年目の現在は収穫も安定しています。早河さんは、自分には農業しかない」と言い切ります。

半分が不合格 地域ブランドの厳しさ

ビニールハウス組立の仕事で

偶然、津南を訪れた私に、農業を始めるきっかけを与えてくれたのが、後に研修先となる農家でした。コリと稲の栽培を大規模に手がけていて、私にとって農業の師匠です。町の担当者には「難しいからや

めろ」と言われましたが、あえて研修制度が推薦する作物を捨て、師匠の作物への挑戦を決めました。

師匠は大変厳しい人で、研修中も手取り足取りは教えてくれませんでした。途方に暮れた私は、草取りや掃除から始め、自分で少しずつ仕事を覚えましたが、それこそが、いずれ独立するのだから、何をすればよいかは自分で考える」という無言の指導だったのです。私が、栽培について深く考え抜く習慣を身につけることができたのも、こうした師匠の教えがあればこそです。

現在、私のコリ畑は約四十アールです。津南のカサランカ（コリの一品種）は、雪美人」のブランドで全国的に有名で、津南町のコリ全体の販売額は年間四億円を超えます。その分、非常に厳しい共済制度があり、JAによる抜き取り検査や、仲間内の会合を通じた品質チェックを行って、基準に満たないものは絶対に出荷しません。当然、新規就農者も例外ではなく、私の場合、一年目は丹精込めたコリの半数が「ハネダシ（規格外）」となり、泣きたくないこともあります。一目では分からないくらい葉が黄色が

っているだけで失格なのです。

同時に、落後者を出さないための研修会などにも一般の産地以上に熱心で、先輩たちは私のような新参者にもきめ細かくアドバイスしてくれました。地域全体の仲間意識で、ブランドを守り続けているのです。おかげで私も最近ではようやく規格外を三割に抑えられるようになり、一割以下という目標も見えてきました。

平成十一年、品質のすばらしさを組合員の努力が評価され、日本農業賞の大賞を受賞。

津南でやるからには コシヒカリを作りたい

せっかく津南に来て農業をやるからには、やはりコシヒカリを作りたい。そこで、就農後すぐ地元の集落に家を借り、近所のお年寄りともグートボールを楽しむなど、地域に溶け込めるように心がけました。田んぼを借りること一つとっても、日ごろから築上げた信頼が第一だと思ったからです。そのかいあって、少しずつ田



んぼを任せてもらえるようになり、今では約一・七畧の田んぼを借り、ほかに三畧の作業受託もしています。作業受託は経営的な利益は高くありませんが、稲作を続ける上での信頼を得るため、機械の稼働率を上げるために行っています。機械を使う稲作は五畧が採算ラインといわれ、ギリギリの状態ですが、将来もつとくさんの田んぼを任せてもらえるように頑張っています。

楽しさも厳しさも分かっていただけに、子供たちに将来「農業を継ぎたい」と言われたら悩むと思います。天候不順による作物の出来不出来など、自分の努力が及ばないところでつらい

目にあっても、前向きな気持ちで耐えられるくらい好きでなければ、絶対に続けられないのが農業だからです。でも、土とふれ合い、自分の手で生き物を育て上げる農業の喜びはもっと大きい。そのことだけは伝えたい。それと、子供たちが「やりたい」と言ってくれたときには、できる限りの用意はしてやりたいと思います。今は、農業に打ち込む父親の姿を見せることしかできませんが、子供たちが少しでも農業を好きになつてくれれば、と願いながら働いています。自分は農業が大好きで、農業ができない人間だといつことが、津南町に来てよく分かりました。



「努力も結果も自分で背負う。それが農業」

しまだ ゆうすけ 島田有介さん 就農九年目

前職は公務員という島田有介さん。一度きりの人生だから、自分の責任で取り組める仕事をしたいという思いを胸に、四十歳を過ぎて農業の世界に飛び込みました。家族を横浜に残しての単身赴任は大変でしたが、得たものも大きかったと振り返ります。島田さんは、農業を続けるうちに、都会とは違う価値観を手に入れたと語ります。

十年の経験を生かし ニンジンから野沢菜へ

就農時に四十歳を超えていた私に、津南町が「来てもいいよ」と言ってくれたときは感激しました。農家で一年間研修しましたが、年齢の関係で制度を利用できなかったため、自分で失敗して、痛い目にあいながら仕事を覚えてきました。

この十年は、農業に転職した私の覚悟を問う十年でした。就農以来続けてきたニンジンは相場の低迷が続いたため、あきらめざるを得ませんでした。就農制度が推薦するニンジンをやつと都会に送れるようになったときに、輸入ニンジンが襲ってきたのです。価格回復のめどが立たないまま、翌年も作り続けました。今振り返ると、「農業が好き」と言った自分が本物であ

ったと、自分でも初めて気付いた時期でした。しかし、今年からは野沢菜を作っています。契約栽培に近い取引なので、決められた出荷数の確保に追われています。

自分に野沢菜が作れるかどうか心配でしたが、作物は変わっても、十年間の経験は生きていました。身につけた農業技術でうまく軌道に乗せることができました。ニンジンは収穫が年一回なので、一度失敗すると翌年までチャンスがありませんが、野沢菜は年に何回も収穫できるので、すぐに次のチャレンジができ、勉強になります。今年は、約二分の畑を全部野沢菜にしましたが、ニンジンより神経を使わずにすむほごです。収穫が手作業なので、人の手



配は大変です。収穫期の六月から十一月まで、六、八人の人手を確保しなければなりません。幸い、私は就農直後から地元の集落に住んでいたため、ニンジンに挑戦し続ける姿を見てくれた近所のおばさんたちが、困った私を助けてくれました。

の食卓に上ることを考えると、それだけでうれしくなります。新規就農は、お金もつけないように思ってた後、後悔します。でも、農業が好きで、「そこそこ食べていければいい」と思う人なら、きつと続けられます。私自身、十年間ですっかり価値観が変わりました。都会は便利で、お金を払ってほしいものをそろえるのも簡単です。でも、ここでは少しくらい不便でも、ほしいものが手に入らなくても、ゆったりと自然と向き合い、作物とふれ合いながら、自分で食べるものは自分で作ることができます。私には、その方がよほど幸せです。

一生懸命やっても、よい作物ができるとは限りません。でも、手をあげばそれなりのもので、手はあがります。だからこそ、よい作物ができたときの喜びもひとしおです。

一から十まで、自分の責任で仕事ができるのも農業の魅力です。自分がまいた種が育ち、作物となって出荷され、やがて誰かの

野沢菜は農閑期がなく、遠くに住む家族になかなか会えませんが、後悔はありません。午前二時から収穫をしたり、暴落により経営的に苦しい時期もありましたが、農業が楽しくてしょうがないのです。農作業を手伝いに来てくれた子供たちも独立し、近々、横浜で暮らしている妻も仕事をやることになりました。自分の選択が間違っていないことが、再認識できる機会になればよいと思っています。

「主力と言いつける作物を見つけた」

いわもと たけのり 岩本文典さん 就農三年目

大学で農業化学を専攻した後、ある団体に就職していた岩本文典さんは、新規就農制度を知り、以前からやりたいと考えていた農業を始めました。当初はニンジンを作っていましたが、相場の低迷もあって現在はアスパラガスに転作し、津南町が名産として育てようとしている「雪味ニンジン」など、新しい作物にも積極的に取り組んでいます。

新たな作物を求めて 模索する日々

最初は「草取りがこんなに大変なのか」と驚きましたが、未経験者がいきなり農業を始めるとは思っていません。津南の制度には感謝しています。

研修先の農家には、今も何かと相談に乗ってもらっています。当初は研修先と同じニンジンを作っていましたが、相場の低迷が続いて経営が難しくなり、農業公社とも相談してアスパラガスに転作しました。ニンジンで食べていくと決めていたのに、突然の転作には戸惑いましたが、公社や研修先農家のアドバイスもあって

なんとか順調にっています。

町が新たな津南名物に育て上げようとしている「雪味ニンジン」にも取り組んでいます。

雪の下で越冬させ、春に雪を掘り返して収穫するため、ニンジン独特の臭みが消え、甘味成分も増えて子供にも食べやすい品種です。最近では徐々に消費者に認められつつあり、町内で製造・販売されている「雪味ニンジン酢ドリンク」も土産品として好評です。

このほか、トマトなどにも挑戦していますが、今のところ決め手がないのが悩みです。また、津南では土地利便型の作物が主流ですが、全部一人で行っ



ているため、手が回りきらない難しい作業もあります。今後とも町や公社とともに考え、連携しながら、新たな挑戦を続けていきます。

いつまでも 新参者ではられない

本日は冬も農業をやりに、年間を通じて食べていけるようにしたいのですが、現在の経営状態では施設が用意できません。しかたなく、冬場はスキ場働いていますが、仕事は決して多くないので、誰もが働けるわけではありません。冬場対策は、新規就農制度全体を通じた課題

だと思っています。現在のところ、町や公社に多くの協力を仰いでいますが、私自身、いつまでも「新規就農者」ではられません。当面の目標は、今住んでいる町営住宅を出ることです。一日も早く地元へ溶け込み、より自分に合った作物や栽培方法のヒントをつかんで、もう一段の飛躍につなげたいと思っています。

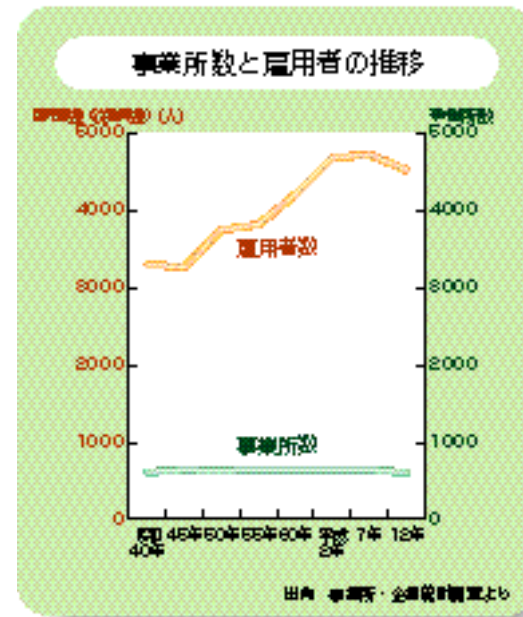
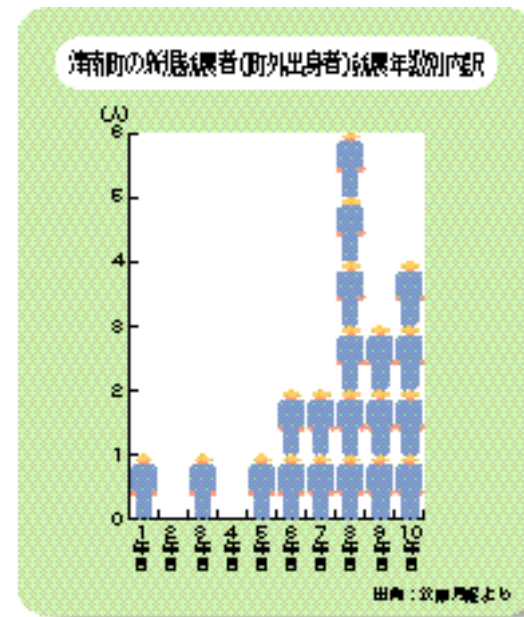
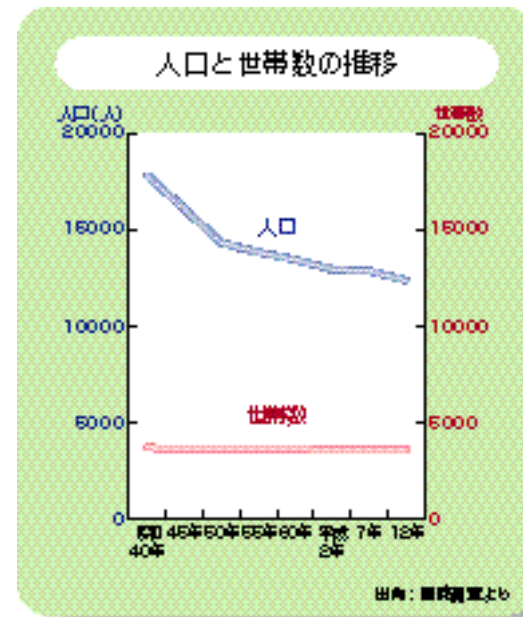
これから就農する人には、「せめて本で勉強してから来てほしい」といいたいですね。私の専門は農業化学で、農作業の知識はありませんでしたが、少なくとも農家の人たちと対等に話せる話題がありました。経験がないのなら、せめて知識くらいは身につけておかないと、自分が思っているような成長は望めませんから。



DATA PAL

津南町

お問い合わせ先 / 津南町地域振興課
〒949-8292 新潟県中魚沼郡津南町大割野
電話 0257-65-3115 URL <http://www.town.tsunan.niigata.jp>



津南町の主な畑作物

品名	面積	産出額	主な出荷先
にんじん	47ha	71億円	東京・新潟市等
アスパラガス	72ha	210億円	東京・新潟市等
スイートコーン	35ha	68億円	東京・新潟市等

品名	面積	産出額	主な出荷先
紅玉トマト	22ha	84億円	カゴメ(株)
ピーマン	38ha	81億円	新潟市等
ピーチ	60ha	220億円	日本水産(株)

品名	面積	産出額	主な出荷先
ユリ	10ha	432億円	東京・大阪市等
ユリ球根	4ha	30億円	新潟・長野
アスパラガス	8ha	68億円	東京・大阪市等

出典：就業内報より

発電所概要

信濃川水力発電所(東京電力): 出力17.7万kw 運転開始 昭和14年11月

新しく農業をやってみたいという方々へ

事例のよつに「将来、農業をやりたい、農業の技術を勉強したい」と考えている方々は、どこに相談に行けばよいのか、具体的なニーズに沿った方たちで検討していきます。

■最初に相談するところ
全国新規就農センター
都道府県新規就農センター
農業体験や農業研修施設情報の紹介、新規就農者を受け入れてくれる市町村等の支援施策など、様々な就農関連情報が集まっています。

■農業法人に就職したい
農業法人の求人情報
農業法人の研修情報

■農地を取得したい
全国新規就農センター

■農業の技術を学びたい
道府県立の農業大学校
民間の農業大学校
高校卒業後の二年コース 短大卒業後の二年コースがあります。Uターン者のための一年以内の短期コースもあります。

独立行政法人農業者大学校

講義や演習と先進農家での実習等を組み合わせた、特色ある三年間の教育を行っています。

落葉果樹農業研修所
常緑果樹農業研修所
果樹農業の実践的技術を学ぶ一年間の研修を行っています。

(社)国際農業者交流協会
海外で農業技術を学びたい方が相談できます。

就農準備校
アグリカレッジ
就農準備校では大都市圏で働いている方が、アグリカレッジでは地方で働いている方が、現在の仕事を続けながら土曜、夜間などを利用して農業技術を学ぶことができます。

E-mail塾就農準備校
パソコンで農業が学べます。

■農業を始めるための
お金を借りたい
就農支援資金
研修や就農準備などのための資金を無利子で借りることができます。

農業改良資金
近代化資金
公庫資金

(地域のひろば 編集室)

就農相談のフローチャート

新しく農業を始めたい人がどのような手順で相談すべきか、フローチャートで説明します。

